

パブリックコメントに寄せられた意見と回答

| 主な意見 | 回答 |
|---|--|
| <p>1 ①食育に関する地域活動「たま食育フェスタ」が事業終了となりましたが、「共食」、食品ロス、生産者との交流など考えた新しい多摩市が考える「食」のイベントが開催出来ると良いと思いました。</p> | <p>ご意見ありがとうございます。 共食や食品ロス、生産者との交流など様々な取組を、地域の皆さんや関係団体の皆さんとともに進めていきます。</p> |
| <p>2 ①定量的評価について 本計画の2、3次推進計画における指票と実績をみると、 ・朝食を食べている人の割合、30代は64.8%から64.2%に減少等他にも減少した項目がある。これらにどのように対応するのか記載がない。 このような比較をするのであれば、定量的な評価項目を定め検証するべきである。またアンケートをとるのであれば、定性的な項目も作るべきである。 朝食をとる割合は、指標として継続できるので良いが、幼児まで必要ですか？親が子供に食事を与えるわけで、自分で食事をしない年齢は必要ない。 ②食育にもSDGsの考え方を導入すべき。 ③多摩市は災害を受けにくい都市だと思うので、食育として災害時の食支援に取り組むのが必要と思う。災害弱者に対する対応を、食育の視点から早急に構築するべき。例えば災害時の配給非常食のアレルギー対応食(たぶん行っていると思いますが)災害弱者に対する食支援は、「在宅避難者」(今後マンション等の建設が進めばさらに増加する)も含め対応していただきたい。</p> | <p>ご意見ありがとうございます。 ・青年、壮年期の施策については、健康栄養相談、各種健康診査の中で実施することとしており、ご指摘いただいた30代の朝食摂取率を増やすための取組については、生活習慣病予防の観点から30代健康診査を毎年実施しています。この健診において生活習慣に問題がある方に対して健康・栄養相談を実施しており、自らの健康管理ができるように食生活のアドバイスを通してこれらの指標の増加に取り組んでいきます。また、これらの指標については、定性的な目標で、特に定量的な指標を定めていませんが、100%を目標に取り組んでいきます。</p> <p>・アンケートにおける定性的項目については、小中学生を対象としたアンケートにおいて、朝食を摂取しているか行動を問う項目のところで、「朝食を食べない理由」について全体的傾向を知るため、いくつかの選択肢から回答いただきました。行動の背景にある意識、状況を知るための適切な定性的項目やその調査手法等については、今後の課題とさせていただきます。</p> <p>・3歳児の朝食摂取率については、子どもの摂取率を確認することで、その養育者、世帯に向けて朝食摂取の重要性を啓発することができるため必要な項目と考えています。</p> <p>・SDGsの目標には「目標2 飢餓を終わらせ、食料安全保障及び栄養改善を実現し持続可能な農業を促進する」など食育と関係が深い目標があり、食育の推進はSDGsの目標達成に貢献しています。本計画においては、第1章の食をめぐる環境の中で記載しているほか、基本目標ⅢにおいてSDGsにつながるエシカル消費を意識した取組を推進します。</p> <p>・災害弱者に対する対応は、多摩市地域防災計画において要配慮者や女性・子どもなど様々な被災者のニーズに対応した物資の確保に留意することとして対策を進めるとともに、自助による備蓄(ローリングストックなど)による備蓄)を推奨しています。</p> |
| <p>3 ①新型コロナ、地球温暖化、戦争など、前回策定時から大きく環境が変化していますが、我々ができることから進めていくしかないと思い、素案は良いと思いました。 再開した「男の料理教室」に多くの方に参加して欲しいと思っています。</p> | <p>ご意見ありがとうございます。</p> |
| <p>4 ①若年層には農業体験などを通して、普段、口にしている食物がどのように作られているかを知ることが、食べ物を大事にする第一歩につながると思いますので、いい取り組みだと思います。 我が家も私の父までは兼業農家でしたので、田植え、稲刈り、脱穀などを行っていました。 粃穀と共に弾き飛んだ米粒を、祖母が一粒ずつ拾っているのを見て、母親は「このご飯粒は、ばあちゃんか拾ったお米だ、残さず大事に食べろ」と言われたものです。 食を大切にすることは、食べ物への意識改革の一つになると思います。 ②「取組の指標」の「目標値(令和10年度)」が「増やす」「減らす」の表現がありますが、+0.5%とか-1.0%とか数値目標にしないのでしょうか？ 概要版を見るだけだと、「結果、増えました、減りました」だけにしか感じられません。</p> | <p>ご意見ありがとうございます。 ・取組の指標については、定量的な目標値を定めず「増やす」又は「減らす」としか決めていませんが、第4章の4施策の推進の中で、各取組の取組指標については可能な限り数値目標を定めています。評価指標については、現状の数値を改善することを目標に推進していきます。</p> |

| | |
|---|--|
| <p>5 ①時代や社会形態の変遷も考慮しながら長期的に取り組んでいく課題でもあり、国の施策や都の施策との整合性を取りながら、かつ第3次推進計画までの取り組みを継承しながら進めて行く基本的な考え方には違和感ありませんし賛同します。今回は特にコロナ禍を経て起こった社会生活やコミュニケーションの大きな変化が食生活や食文化にも強く影響を及ぼしましたので、その点にフォーカスして(国や都とアラインしつつ)多摩市として独自性のある施策も1つか2つ実行に移し、リモートワーク出来る環境をより整備し、そこに食文化を組み合わせることで、住み易い場所としての市の魅力も上げることが出来、市の人口が微増できるとよいのではないかと思います。</p> <p>②たとえば多摩センターは京王線、小田急線、モノレールが乗り入れていることもありそれを活用した特産品や食に基づく交流やフレイル予防を組み合わせたイベント等は検討の余地はないでしょうか？また、デジタル化に対応した情報発信の推進を目標の1つに掲げているので「健幸都市」のモデルイメージを訴求する方策を、近隣にある複数の大学ともコラボレーションしたりアイデアを募るコンテストなどもやってみても良いかと思いました。</p> | <p>ご意見ありがとうございます。</p> <p>・平成21年度から食の楽しさや大切さを啓発するイベントとして「たま食育フェスタ」を毎年実施してきましたが、コロナ禍により令和4年度をもって事業を終了しました。今後は、デジタル技術など様々な媒体を活用して情報の発信を推進します。また、フレイル予防につながる講座等において、市内の学校や近隣大学とも連携して、野菜や果物など地域の特産物を使った料理や食に関する健康情報を発信していきます。</p> |
|---|--|